



MAKE BEYOND

つくるを拓く



第122期 中間報告書

2025年4月1日から
2025年9月30日まで



株式会社 大林組

証券コード：1802

株主の皆様へ



代表取締役社長 兼 CEO

佐藤 俊美

平素は格別のご支援を賜わり厚く御礼申し上げます。

当上半期における当社グループの連結業績につきましては、売上高は国内建築事業における前年同期の大型案件進捗の反動や施工キャパシティに見合った計画的な受注活動を行ったことなどにより、前年同期比615億円（5.0%）減の1兆1,612億円となりました。損益の面では、国内建築事業における追加変更工事獲得や採算性の良い案件の寄与度の高まり、子会社の海外土木事業における手持ち工事の順調な進捗、不動産事業における開発物件の売却等により、営業利益は前年同期比350億円（78.0%）増の800億円、親会社

株主に帰属する中間純利益は、前年同期比233億円（42.9%）増の779億円となりました。

2025年度の通期業績につきましては、売上高は2兆5,700億円、営業利益は1,650億円、親会社株主に帰属する当期純利益は1,490億円となる見通しです。

1株当たり配当金につきましては、中間配当金を41円、期末配当金を41円（予定）としており、年間配当金82円を予定しております。

国内建設市場において底堅い需要が続く中、当社グループの業績は堅調に推移しており、建設事業では採算性を重視した受注戦略の継続や生産性の向上により、更なる収益拡大を図っております。また、経営基盤強化及び建設事業の基盤強化のための投資や、事業ポートフォリオの拡充に向けた成長投資を継続し、持続的成長に向けて組織体制やガバナンス体制の整備等を着実に進め、中期経営計画2022に定める「変革実践への取組み」を遂行してまいります。

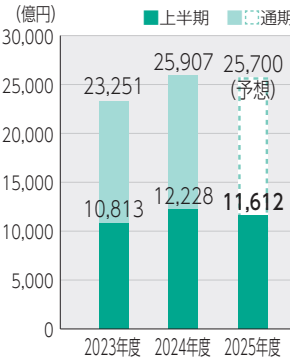
株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2025年12月

業績ハイライト（2025年度上半期実績及び過年度推移）

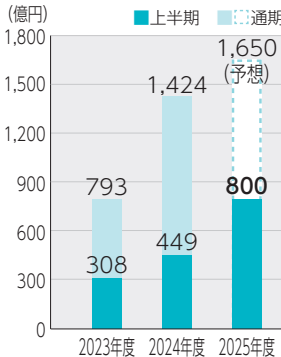
■売上高（連結）

1兆1,612億円
（前年同期比5.0%減）



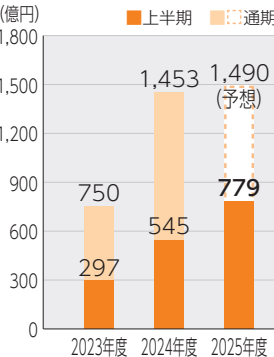
■営業利益（連結）

800億円
（前年同期比78.0%増）



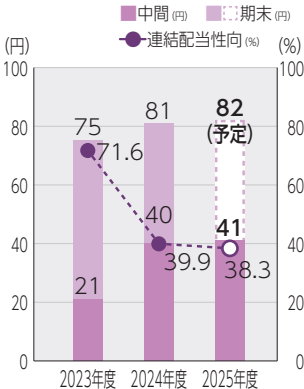
■親会社株主に帰属する
当期純利益（連結）

779億円
（前年同期比42.9%増）



■（参考）1株当たり年間配当金

82円（予定）
（中間配当金は41円）



*2025年度の通期業績は、2025年11月5日に発表した数値を記載しております。

事業別の概況

(建設事業)

受注高につきましては、国内建築事業において施工キャパシティに見合った計画的な受注活動を行っていることなどにより、前年同期比1,401億円（9.0％）減の1兆4,111億円となりました。その内訳は国内建築事業4,859億円、海外建築事業4,400億円、国内土木事業1,602億円、海外土木事業3,248億円です。

次に、売上高につきましては、国内建築事業における前年同期の大型案件進捗の反動や施工キャパシティに見合った計画的な受注活動を行ったことなどにより、前年同期比942億円（8.0％）減の1兆833億円となりました。その内訳は国内建築事業5,133億円、海外建築事業2,344億円、国内土木事業1,942億円、海外土木事業1,412億円です。

また、営業利益につきましては、国内建築事業における追加変更工事獲得や採算性の良い案件の寄与度の高まり、子会社の海外土木事業における手持ち工事の順調な進捗等により前年同期比294億円（76.6％）増の680億円となりました。

(不動産事業)

不動産事業につきましては、開発物件の売却等により売上高は前年同期比233億円（104.1％）増の456億円、営業利益は前年同期比48億円（100.6％）増の97億円となりました。

(その他)

その他の事業につきましては、売上高は前年同期比93億円（40.8％）増の322億円、営業利益は前年同期比7億円（44.4％）増の23億円となりました。

主な受注工事

発注者	工事名称
東京水産ターミナル(株)	新冷蔵倉庫建設プロジェクト 新築工事（建築工事）
(株)北陸銀行	ほくほく F G本社ビル新築工事
三井不動産(株)、豊田通商(株)、 KDDI(株)による共同事業体	(仮称) 名古屋アリーナ計画 新築工事
中日本高速道路(株)	東名阪自動車道 七宝第2 高架橋他 4 橋（下り線）床版取替工事
チャンギエアポート グループ社（C A G）	チャンギ空港第5ターミナル 地下構築工事（シンガポール） ※ 1
カリフォルニア大学 評議委員会	カリフォルニア大学サンタバーバラ校 サン・ベント学生寮新築工事（米国） ※ 2

(注) ※ 1 は大林シンガポール、※ 2 は大林 U S A の子会社であるウェブコー社、その他は当社の受注工事です。

主な完成工事

発注者	工事名称
キヤノン(株)	キヤノン 宇都宮光学機器事業所 新棟 本体工事
日本中央競馬会	阪神競馬場スタンドリフレッシュ (第2期) 工事
大阪ガス(株)	Daigas Innovation Center 建設工事
NECファシリティーズ(株)	(仮称) NECイノベーション新棟建設工事
大阪信用金庫	大阪信用金庫「本館建替え」計画
中日本高速道路(株)	東名阪自動車道 弥富高架橋（下り線） 床版取替工事

<事業別 売上高及び営業利益（連結）> （単位：億円）

区 分	建設事業					不動産 事業	その他	合 計
	国内 建築	海外 建築	国内 土木	海外 土木	建 設 事業計			
売 上 高	5,133	2,344	1,942	1,412	10,833	456	322	11,612
営業利益	385	58	172	63	680	97	23	800

当社グループの主な完成工事



阪神競馬場スタンドリフレッシュ(第2期)工事(兵庫県) 撮影：(株) 仲和



Daigas Innovation Center 建設工事(大阪府) 撮影：(株) 仲和



東名阪自動車道 弥富高架橋(下り線)床版取替工事(愛知県)



キヤノン 宇都宮光学機器事業所 新棟 本体工事(栃木県) 撮影：エスエス



(仮称)NECイノベーション新棟建設工事(神奈川県) 撮影：雁光舎



大阪信用金庫「本館建替え」計画(大阪府)



撮影：エスエス

大林グループ総合展示会「OBAYASHI VISION SHOWCASE 2025」を開催

当社グループは、長期ビジョン「Obayashi Sustainability Vision 2050」で、「地球・社会・人のサステナビリティの実現」に向けて、当社グループ全体でCO2排出をゼロにする「脱炭素」を目標の一つと定め、取組みを推進しています。

この一環として、2022年に続き2度目となる大林グループ総合展示会「OBAYASHI VISION SHOWCASE 2025」を東京では本年5月に、大阪では本年7月から8月にかけて開催しました。本展示会では「脱炭素」をテーマに、建設領域におけるCO2削減技術から、建設を超えた領域での取組み、未来に向けた価値創造まで、当社グループの様々なチャレンジをご紹介しました（※）。



東京で開催した「OBAYASHI VISION SHOWCASE 2025」実展示会場の様子

ここでは、本展示会で取り上げた技術の一例として、建築物解体後の構造部材を新築建物にリユースする国内初の実証プロジェクトをご紹介します。

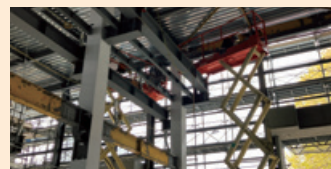
建物の構造体をリユースする手法は、これまで建物のコンバージョンや耐震改修等では実績があり、新材やリサイクル材（再生材）を使用した場合に比べ、部材製造時におけるCO2排出量の削減効果があることが検証されています。しかしながら、柱・梁の位置や形状を大きく変えないことが前提となるため、設計上の制約があることが課題でした。

現在、当社は技術研究所（東京都清瀬市）で実験棟「オープンラボ3」の建設を進めています。2025年6月に完成した第1期部分では、計画当初から解体建物のリユース建築を前提とし、構造部材の取り出し時（研究所内の既存実験棟の解体）における切断位置の検討や、新築建物の施工前における構造部材の設計に合わせた加工等、様々な工夫によりリユース材を用いた設計・施工を実現し、環境配慮型建築の可能性を実証しました。本工事では、新築建物の構造部材のうち鉄骨57%、コンクリート33%で、解体建物のリユース材を使用しました。構造部材製造に伴うCO2排出量は、新たに全ての資材を調達する場合に比べ、約49%削減できました。

また、継続施工中の第2期部分では、大阪・関西万博の閉会後に解体されるパビリオンの建築・設備資材の再利用を計画しています。



設置したリユース基礎部



仕上げ工事前の内部
(黄色鉄骨がリユース材)

本工事は自社の技術研究所であることから、研究員が直接解体建物の構造体の状態やリユース材の加工状況等を検証することができるため、迅速な技術改善や新たな技術開発に繋げることができます。

当社グループは、本工事で得られた知見を活かし、建物構造体のリユース技術をはじめ、様々なサステナブル技術を開発し、提案していくことで、脱炭素社会と循環型経済の実現に貢献していきます。

※ オンラインによる展示会は、2025年12月22日（月）まで実施しておりますので、当社グループの脱炭素社会実現に向けた様々な挑戦を当社「[特設サイト](#)」からぜひご覧下さい。



ローカル5Gが支える新丸山ダム本体建設、ケーブルクレーンの自動・自律運転に成功

当社グループは、中期経営計画2022の基本戦略の一環で「技術のイノベーションによる建設事業の基盤強化」を掲げており、デジタル技術やロボティクス技術等のイノベーションによる革新的な建設生産システムの構築に取り組んでいます。

その具体例として、当社が岐阜県で施工中の新丸山ダム本体建設工事（国土交通省中部地方整備局発注）での取り組みをご紹介します。本工事は、国土交通省により「3次元情報活用モデル事業（全国13事業）」に選定され、国内最大級のダム再開発事業として、高い技術力とDXを駆使し、様々な課題にチャレンジし成長する先導的役割を果たしています。

本工事では、ダム建設における「自律型コンクリート打設システム」の確立に向けた開発を進めており、2025年2月にコンクリート運搬に使用するケーブルクレーンの自動・自律運転システムを構築しました。



新たなダムは洪水調節容量が現状の3.6倍

ケーブルクレーンは、2つの支点間にかけ渡したワイヤロープを軌道としてトロリーが横行する形状で、吊り荷の横行中やコンクリートの放出時にバケットが縦や横方向に揺動します。この揺動を抑制するため、従来は、

コンクリート放出地点の合図者とクレーン操作室のオペレータによる無線を使用した連携と巧みなクレーン操作技術に頼っていました。

今回、これらの作業を自動・自律運転化すると同時に、工事の品質を保ち、省人化や生産性、安全性を向上させるため、当社は、KDDIエンジニアリング(株)と連携して、利用者が独自に設計したエリア内で大容量データの超高速送受信や多数端末の同時接続を可能とするローカル5Gを活用しました。

本システムでは、クレーンのフックやトロリーに無線端末を設置することで、揺動を瞬時に検知し、自動で揺れを抑制します。その結果、オペレータの熟練度によらない、安定した工事の進捗や品質の確保が可能となりました。



ケーブルクレーンの自動・自律運転システムでコンクリートを運搬

また、クレーンのフックに搭載したカメラは、高解像度の4K映像を集中監視室に伝送することができ、現場の最新状況をリアルタイムに監視することができるという点で安全性の向上にも寄与しています。

当社は、「自律型コンクリート打設システム」の更なる進展を図るとともに、今後も多様な事業者と協力し、建設業におけるローカル5G等によるDX技術の発展を目指して研究開発や実証、導入を進めていきます。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 6月
期末配当金 3月31日
受領株主確定日
中間配当金 9月30日
受領株主確定日
単元株式数 100株
公告の方法 電子公告
公告掲載URL (<https://www.obayashi.co.jp/koukoku/index.html>)
株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先 東京都府中市日鋼町1-1
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
TEL 0120-232-711 (通話料無料)
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号

株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について

【証券会社で口座を開設されている株主様】

口座を開設されている証券会社にご連絡下さい。

【証券会社で口座を開設されていない株主様（特別口座の株主様）】

上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行株式会社）にご連絡下さい。

※未払配当金のお支払いにつきましては、どちらの株主様も上記株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行株式会社）が承ります。

単元未満株式の 単元株式数当たりの売買委託手数料相当額を買い
買 取 手 数 料 取った単元未満株式数で按分した額及びこれにか
かる消費税額等の合計額

上場金融商品取引所 東京証券取引所

株主総会資料の書面交付請求について

当社は、環境負荷低減の観点から、株主総会資料（招集ご通知）を当社HPにてご提供しており、また、書面では、株主総会議案等を抜粋した要約版をお送りしています。詳細版の送付をご希望の場合は、以下ウェブサイトから2026年3月31日までに「書面交付請求」のお手続きを行っていただきますようお願いいたします。

三菱UFJ信託銀行ウェブサイト

<https://www.tr.mufg.jp/daikou/shomenkoufu.html>

お問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部：0120-696-505
(フリーダイヤル)

(受付時間：土・日・祝日等を除く 平日9:00～17:00)

表紙写真

上段 阪神競馬場スタンドリフレッシュ（第2期）工事（撮影：(株) 伸和）

中段 撮影：藤原 慶

下段 東名阪自動車道 弥富高架橋（下り線）床版取替工事



見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

